

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。
■文中で旧 URL (<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL (<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

平成19年度病害虫発生予察情報 特殊報第1号

平成19年12月10日
岩手県病害虫防除所

タバココナジラミ バイオタイプQの発生について

1. 発生状況

- (1) 平成19年9月に東磐井地方のハウスピーマン圃場で、コナジラミ類が多発し、すす病の発生が確認された。
- (2) オンシツコナジラミとは形態が異なったため、(独)農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所に同定を依頼したところ、タバココナジラミ バイオタイプQ (*Bemisia tabaci* Q-biotype) であることが確認された。県内初確認である。(バイオタイプについては【参考1】参照)
- (3) タバココナジラミ バイオタイプQは、平成17年2月に宮崎県で国内初確認以降、国内で急速に分布を拡大し、トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) の媒介、吸汁による生育阻害、排泄物によるすす病等が問題となる重要害虫である (TYLCV については【参考2】参照)。東北地方では、平成18年に福島県、宮城県で発生が確認されている。



ピーマンに発生したすす病

2. 形態と生態

(1) 形態的特徴

コナジラミ類にはタバココナジラミとオンシツコナジラミがあり、形態で区別が可能である。

成虫: 体長は 0.8mm で、体色は淡黄色である。オンシツコナジラミに比較してやや小さく細く、体色が濃い。(写真1)

幼虫: 1齢から4齢まであり、4齢幼虫で見ると判別が容易である。タバココナジラミの4齢幼虫は、長さ1.0~0.7mm、幅0.8~0.5mm、後部がやや細い楕円形で、中期以降は扁平な体の背面がわずかに盛り上がり黄化する。オンシツコナジラミの4齢幼虫は体色が白く、楕円形で厚みのあるコロッケ状で、毛状の突起が多い。(写真2)



写真1: 成虫の比較 (左: タバココナジラミ、右: オンシツコナジラミ)

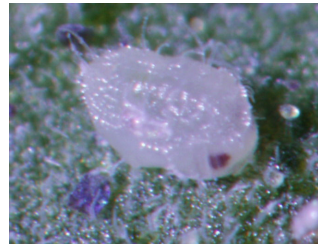
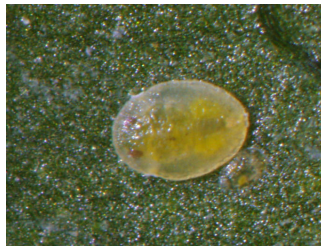


写真2: 4齢幼虫の比較 (左: タバココナジラミ、右: オンシツコナジラミ)

(2) 生態

詳細な生態は不明であるが、基本的にはタバココナジラミ バイオタイプB (=シルバーリーフコナジラミ) と同様に東北地方の露地では越冬できないと考えられている。

(3) 寄主植物

タバココナジラミ バイオタイプQは多くの植物、雑草に寄生し、増殖する。

〈これまで寄生が確認された植物〉

ナス科：トマト、ミニトマト、ナス、ピーマン、パプリカ、シシトウ、ウリ科：キュウリ、メロン、シソ科：大葉、ユリ科：アスパラガス、アブラナ科：茎ブロッコリー、ヒルガオ科：カンショ、アカネ科：ブーバルディア 等

3. 防除対策

- (1) 未発生圃場では、既発生地域から苗を導入する場合、本種を持ち込まないように注意する。
- (2) 施設栽培(特に野菜、花き)では、ハウスの開口部に寒冷紗や防虫ネット(0.4mm 目以下)を張り、成虫の侵入を防ぐ。その際、通風が悪くなるので換気や温度管理に注意する
- (3) 圃場内及び周辺の雑草を除去する。
- (4) 発生が確認された圃場では、薬剤による防除を徹底し、施設外への移動を防ぐ。薬剤散布の際は葉裏に十分かかるように散布し、散布ムラが生じないようにする。
- (5) 本種はピリプロキシフェン(ラノーテープ)や一部のネオニコチノイド系殺虫剤に対する感受性が低い事例が報告されている。薬剤効果の著しい低下が見られた場合は、最寄りの指導機関に問い合わせる。また薬剤散布を行う場合は、指導機関に効果について確認してから使用する。
- (6) 栽培終了後は、株を切断し枯死させハウスを密閉するか、薬剤防除により死滅させる。

【参考1】タバココナジラミとバイオタイプ

タバココナジラミには、遺伝子型や寄主植物の違い、交雑の可否などで異なる系統(バイオタイプ)に分けられ、世界中で40種類以上のバイオタイプがある。日本では、在来系統2種類(バイオタイプjpL、Naru)とバイオタイプB(=シルバーリーフコナジラミ)とバイオタイプQが確認されている。なお、バイオタイプは、形態的には区別できない。

【参考2】タバココナジラミとトマト黄化葉巻ウイルス(TYLSCV)

タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介し、トマトやミニトマト、トルコギキョウなどに感染すると葉巻症状等が発生する。保毒虫(成虫)は、本ウイルスを永続的に伝搬するため、被害が大きい。なお、本県では未発生であるが、東北地方では今年福島県で発生が確認されている。

〈参考〉トマトにおけるトマト黄化葉巻病の病徴

- ・葉縁が退緑し、葉巻状となる。
- ・葉脈間が黄化して縮葉する。
- ・頂部の叢生、株の萎縮が見られる。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】

TEL 0197(68)4427 FAX (68)4316

★この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/>

農薬使用の際には ①使用基準の遵守 ②飛散防止 ③防除実績の記帳 を徹底しましょう